

関西の景気トピックス【ホテル稼働率（24年6月）】

- 24年6月の宿泊旅行統計調査（観光庁）によると、ホテルや旅館の客室稼働率は、概ね堅調な推移が続いている。特に、東京、大阪については、ほぼコロナ前の水準に戻る形となっている。
- ホテル・旅館の延べ宿泊者数を、国内客、訪日客に分けると、トレンドに大きな違いがみられる。まず、国内客はほぼコロナ前の水準に戻ったあと、概ね横ばいでの推移となっている。関西に限っていえば、コロナ前を下回る月もみられる状況である。
- 一方、訪日客はコロナ前を大きく上回り、直近もさらなる増加の動きがみられる。関西についてはコロナ前の1.3~1.4倍、南関東については2倍を上回る水準となっている。
- これらの結果、延べ宿泊者数に占める訪日客の比率は上昇が続いている。足元で、南関東、関西ともに40%前後とコロナ前（30%前後）を大きく上回っている。ホテル料金の上昇や節約志向によって国内客の増加が見込みにくい中、足元の需要は訪日客が牽引する傾向が鮮明となっている。ただ、徐々に円安傾向の調整が進む中、この傾向がいつまで続くかはやや不透明感もある。

